

□シンポジウム Symposium

America as a Pacific Nation

講演者：Gary Y. Okihiro（コロンビア大学教授）
Stephen H. Sumida（ワシントン大学教授）
矢口祐人（東京大学准教授）
司会：John T. Dorsey（立教大学教授）
日時：2008年6月17日（火）18:30-21:00
会場：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館ホール（3階）

立教大学アメリカ研究所は2008年6月に国内外から3名の講師を招き、公開シンポジウム「American as a Pacific Nation」を開催した。「欧米」という言葉が象徴するこれまで大西洋を中心に考えられてきたアメリカ合衆国を、「太平洋国家としてのアメリカ」として位置付け直し、その視点からアメリカの文化的・社会的相対化を試みたこのシンポジウムの講演内容について、簡単に振り返る。

コロンビア大学教授のゲイリー・Y・オキヒロ氏は「America's Pacific Destiny」という題目で講演を行った。オキヒロ氏は近年アメリカを「太平洋国家（Pacific Nation）」として捉え直そうとしていることを明らかにし、アメリカ合衆国とハワイの関係性を新たな視点から説いた。一般的には「影響を与える側＝アメリカ本土」だと見なされがちだが、実際にはハワイの側からアメリカ本土へと多くの影響が与えられたとハワイアン音楽を媒介として論じた。ハワイアン音楽のルーツはハワイ先住民の奏でた土着の複雑な構成や奏法にあるのだが、外部から持ち込まれたいくつかの楽器や伝統も柔軟に吸収し、彼ら独自の音楽が形成されたことを指摘した。またオキヒロ氏はハワイにギターを持ち込んだのは、急増した畜産をコントロールするために招いたメキシコ人カウボーイ達だったことなど、ハワイ音楽の歴史を詳らかにした。さらにファルセット唱法、賛美歌、ジャズ、ブルース、カントリー、レゲエ、ワルツといった大陸由来の様々なジャンルの音楽とハワイアン音楽は融合し、相互に影響を与えあいながら進化を続けたとそれぞれの楽曲を紹介しながら議論を展開した。

続いてワシントン大学のスティーヴン・H・スミダ氏が「Hawai'i Okinawa, and the American Popular Imagination」という題目で講演を行った。この講演では、『八月十五夜の茶屋』（*The Teahouse of the August Moon*, 1956）と『ベストキッド2』（*The Karate Kid Part II*, 1986）という有名なハリウッド映画を通して、一般的なアメリカ人のイメージにおける沖縄の位置づけとそのハワイ像との類似性、さらに帝国主義的イデオロギーとの連関について解き明かされた。こ

の2つの映画はどちらも沖繩を舞台としているが、扱う時代には40年の差がある。だがそこで描かれる沖繩像はどちらも時が止まったかのように前近代的であり、村の民衆は無力で、その原始の地に変化を与え、歴史を作るのはアメリカ人(軍)である。これらのアメリカ文化の所産である映画が提示する沖繩人像是土着の人々のイメージの代表といえ、ハワイの先住民族の表象とも似通っていることが示された。またスミダ氏は太平洋の島々にアメリカ軍が展開している現状を挙げ、太平洋の中のアメリカ(Pacific America)を考えることは帝国主義について考えることと同義であると結論付けた。

東京大学の矢口祐氏は「The Pacific as an Inland Sea」と題し、講演を行った。はじめに矢口氏は2008年5月に開催された第14回国際交流会議「アジアの未来」(日本経済新聞社主催)の晩餐会における福田首相(当時)の演説「太平洋が内海となる日へ——ともに歩む未来のアジアに5つの約束」を紹介した。福田首相はアジア・太平洋外交の新たな基本理念を表明する際に地中海を引き合いに出し、30年以内に太平洋は「内海」になるとの認識を示したのだが、ここで触れられた内海の所有者からはフィジー、マーシャル諸島、タヒチ、トンガなどの島国は完全に抜け落ちており、この欠落は今日の多国間資本主義の世界的なネットワークを優先したからだと分析した。また1943年に日本で刊行されたハワイに関するいくつかの出版物について触れた中では、ハワイ併合論が3つの理由(日本人移民の存在、邪悪な米国から解放する責任、欧米人より日本人が先にハワイに入植したという歴史的「事実」)によって正当化されていたことも紹介し、当時の日本人の太平洋観が明らかにされた。矢口氏は結論として、アメリカを太平洋国家として見る視点からは多くの利便を得ることができるかもしれないが、同時にそこには本質的に大国の力学が働いていることを認識しておく必要があると注意を喚起した。

オキヒロ氏からは「日本、第二次世界大戦、そして第三世界の解放」というテーマのもと論文を書き下ろしていただいた。スミダ氏からは講演原稿に加筆・修正を加えていただいた文章を以下に掲載する。

(文責：奥村理央)